

# 解説

① 読み…おてもと

漢字…御手茂登

【解説】私達が現在使用しているひらがなは全て漢字に由来しています。江戸時代は現在と違い、ひらがなも漢字で表していました。これらの字を「変体仮名」といい、一つの仮名につき数種類の漢字が該当します。

例えば「て」を表せるのは「手」のほか「天」「亭」「帝」「傳」「弔」などがあります。我々のご先祖さまの教養の高さには驚かされますね。

② 読み…おたをる

漢字…御多越留

【解説】「お」は①と同字であることに気づきましたか？現在のかな「る」

は「留」が元になっています。この様に現在の仮名の由来となつた漢字を「字母」といいます。

③ 読み…きそば

漢字…生楚者

【解説】現在の漢字「蕎麦」とは違う漢字ですね。これは仮名（変体仮名）表記にしきつたもので、その由来は「そば」の「そ」が「糸」（「糸」の字形）で表されたもので、それが「そば」と「そば」の字形が合体して「そば」となったのです。

#### ④ くず桜

【解説】「く」の頭に飾りがついていますね。これは「く」の字母である「久」の字の名残です。「す」は「寸」が元になっています。「桜」は読めましたか？ 木扁  
は手扁の様に、旁の「女」は「あ」の様に見えますね。

#### ⑤ 新月

【解説】「新」の旁「斤」がくずれると「ち」の様になります。

#### ⑥ 御膳 蕎麦処

【解説】「御」は①②と同字です。「麦」が読めると「蕎麦」が予想できるのではないか。 「処」は現在の常用漢字と違い「處」と表されます。

古文書では、仮名同様漢字も現在とは違う形の字（異体字）が使われることがよくあります。（※「異体字一覧表」参照）

#### 撮影協力店

- ・ 小平市たかの台「新月」さん
- ・ 小平市学園東町「青柳」さん

ご協力ありがとうございました。



小平市立図書館では、古文書入門書を数多く所蔵しています。こちらの講座と併せて、ぜひご活用ください。

参考資料

- 『古文書をはじめる前の準備講座』吉田豊／柏書房
- 『これなら読める！くずし字古文書入門』小林正博／潮出版社
- 『知識ゼロからの古文書を読む』古賀弘幸／幻冬舎